

クライン講読セミナー 講読リスト

福本修（サポチル関東主催）

2023年度のビオン講読セミナー・2024年度の現代クライン派講読セミナーに続いて、クライン自身の諸論文を読んでいくセミナーを開催します。それ以外にも、クラインの基本的な概念を理解するために、R・D・ヒンシェルウッド／トマス・フォーチュナ著『メラニー・クライン ベーシックス』（以下では MKB）を、現代の文脈で理解するためにジャン・アブラム、R・D・ヒンシェルウッド著『クラインとウィニコット 臨床パラダイムの比較と対話』（以下では KW）を取り上げます。すべて日本語ですので、予習したうえでその場での討論を通じて理解を深めることができるでしょう。下記リストの MKB 第○部あるいは KW 第○部は、同書の該当箇所を指しています。（第4水曜日午後7時30分～10時、ZOOMにて開催）

2025年度文献リスト

第1回（2025年4月23日）：MKB 第I部 新しい方法，新しい事実

- 第1章 メラニー・クラインとは何者か？
- 第2章 クラインはどこから始めたのか？
- 第3章 精神分析の基礎を確立する
- 第4章 心的現実とは何だろうか？
- 第5章 子どもの内面への洞察とは？
- 第6章 本当に新たな発見なのか？
- 第I部のまとめ

メラニー・クライン：子どもの発達（1921）（平井正三訳）

第2回（2025年5月28日）：KW 第I部 基本原理

- 第1章 メラニー・クライン
- 第2章 ドナルド・ウィニコット
- 要約／対話

メラニー・クライン：精神分析的プレイ技法（1955）

第3回（2025年6月25日）：MKB 第II部 最早期の発達—誕生から始まる

- 第7章 早期のメカニズム—内と外
- 第8章 経験と空想
- 第9章 あなたは誰？—自我境界
- 第10章 抑うつとは？
- 第11章 償いとケア
- 第II部のまとめ

メラニー・クライン：躁うつ状態の心因論に関する寄与（1935）

第4回（2025年7月23日）：KW 第Ⅱ部 早期の心的発達

第3章 クライニアン・ベイビー

第4章 ウィニコッティアン・ベイビー

要約／対話

メラニー・クライン：幼児の情緒生活についての二、三の理論的結論（1952）

第5回（2025年9月24日）：MKB 第Ⅲ部 どのくらい狂うことができるのか？（1）

第12章 自我の分裂—なにが心の安定を乱すのか？

第13章 絶滅—誰が粉々になることを恐れているのか？

第14章 妄想・分裂ポジション—壊れること

メラニー・クライン：分裂的機制についての覚書

第6回（2025年10月22日）：KW 第Ⅲ部 外的対象の役割

第5章 不安と幻想

第6章 環境と個人の組合せ

要約／対話

メラニー・クライン：乳幼児の行動観察について

第7回（2025年11月26日）：MKB 第Ⅲ部 どのくらい狂うことができるのか？（2）

第15章 投影同一化—彼の一部分はどこか別のところにいる

第16章 あらゆる悪徳の中で最悪のもの—羨望

第17章 精神病的「現実」とは？

第Ⅲ部のまとめ

メラニー・クライン：羨望と感謝

第8回（2026年1月28日）：KW 第Ⅳ部 心的苦痛という精神分析的概念

第7章 メラニー・クラインと内的不安

第8章 ドナルド・ウィニコットの攻撃性の概念

要約／対話

メラニー・クライン：不安と罪悪感の理論について

第9回（2026年2月25日）：MKB 第Ⅳ部 基礎を超えて—真実

第18章 病理的組織化—マフィアの中には誰がいるのか？

第19章 包容

第 20 章 考えが考える人を見つける

第 21 章 クライン派の精神分析はどのように応用されるのか？

第IV部のまとめ

メラニー・クライン：同一視について

第 10 回（2026 年 3 月 25 日）：KW 第V部 実践と理論

第 9 章 誰の現実か，誰の経験か

第 10 章 抱えることと変容惹起的解釈

要約／対話

メラニー・クライン：大人の世界と幼児期におけるその起源